

トマト・キュウリの出荷規格見直しの取り組みについて



食と農を未来へつなぐ。

1. はじめに

- 青果物の出荷規格は、産地間競争や取引先の要望等を背景に、各産地で独自に細分化がすすめられてきましたが、近年では生産者の高齢化や選果場での人手不足等から、労力軽減に向けた出荷規格の見直しを求める声が産地・卸売市場から高まっております。
- こうした状況を踏まえ、全農では生産者および J A 選果場の労力軽減や、青果物流通の効率化を目的に、昨年度から全国統一的な出荷規格の見直し検討に着手し、トマト・キュウリより取り組みをすすめてまいりました。
- 検討にあたり、産地および卸売会社 3 社と出荷規格見直し検討部会を組成し、協議を重ね（詳細は本資料 P 9）、J A や卸売市場団体様との意見交換を経て、このたび標準出荷規格をとりまとめました。
- 今後、標準出荷規格の普及・推進にむけ、各産地より卸売市場の皆様へ、ご相談等があるかと思われませんが、本取り組みへのご理解・ご協力のほどよろしく申し上げます。

2. 全国標準出荷規格（トマト）

標準出荷規格					
等級	階級	1箱玉数		荷姿	量目
		定数	非定数		
A・B	3L	12玉	11～14玉	DB	4kg標準
	2L	16玉	15玉または16玉		
	L	20玉	18玉または20玉		
	M	24玉	24玉		
	S	28玉	28玉または30玉		
	2S	32玉	32～35玉		

等級選別基準		
	A	B
果形	・円形に近いもの	・果形が乱れているもの ・軽微な空洞
チャック	・目立たないもの	・大きく目立たないもの ・窓あきは不可
花落ち	・目立たないもの	・大きく目立たないもの
裂果	・目立たないもの	・果肉に達していないもので、大きく目立たないもの ・傷が黒くなっていないもの
傷	・乾いており、目立たないもの	・乾いており、大きく目立たないもの

※出荷規格の詳細は各産地が個別の状況を考慮し決定する。

トマトの標準出荷規格の基本的な考え方

- **等級**は、現行では3区分の産地が多いが、1番手と2番手（例：AとB、秀と優）が実需者に区別なく販売されることが多い実態を踏まえ**2区分**とする。
- **階級**は、現行の区分ごとに用途があるため集約せず、一般的な**3L～2Sの6区分**とする。
- **1箱の玉数**は、**モールドを使用する場合を定数、使用しない場合を非定数**とし、販売時の利便性等を踏まえ、**それぞれ基準を設定**する。
- 各階級の1個あたりの大きさ・重量、出荷時の色目（カラーチャート）は、品種等の違いにより標準的な基準を設けることが困難であるため、標準出荷規格に定めない。
- **等級選別基準**は、Aは量販店のバラ売り、Bはそれ以外の販売（袋詰め等）を想定した基準とする。ただし、等級選別基準は各産地のブランディングや価格形成に大きく関係していることを踏まえ、標準出荷規格では**大枠のみとし、具体的な基準は各産地が独自に定める**こととする。 ※同一産地で作型ごとの基準を設けるか否かについても各産地で判断する

3. 全国標準出荷規格（キュウリ）

標準出荷規格

等級	量目	曲がり幅	階級	平箱主体				A式DB主体			
				1箱本数	1本長さ (目安)	1本重量 (目安)	荷姿	1箱本数	1本長さ (目安)	1本重量 (目安)	荷姿
A	5 kg	2.5cm 以内	L	40本以上	22~27cm	115~150g	平箱	36~44本	22~27cm	120~150g	A式DB
			M	50本	19~25cm	95~120g		45~53本	19~25cm	95~120g	
			S	—	—	—	—	54~60本	18~23cm	80~95g	
B	5 kg	4.5cm 以内	L	40本以上	20~27cm	100~150g	平箱 または A式DB	36~44本	22~27cm	120~150g	
			M	50本以上	18~25cm	80~120g		45~53本	19~25cm	95~120g	
			S	—	—	—	—	54~65本	17~23cm	70~95g	
C	5 kg または 10kg	半円 以内	—	5kg: 30本以上 10kg: 50本以上	15cm以上	70~220g	A式DB	5kg: 30本以上 10kg: 50本以上	15cm以上	70~220g	

※ Cの1箱本数は目安とする。

※ 出荷規格の詳細は各産地が個別の状況を考慮し決定する。

等級選別基準

等級	選別基準
A	スレ・傷、尻太・肩落ち、尻細・肩張り、色むら・腹白・着色不良がないもの。
B	スレ・傷、尻太・肩落ち、尻細・肩張り、色むら・腹白・着色不良の程度が軽微なもの。
C	スレ・傷、尻太・肩落ち、尻細・肩張り、色むら・腹白・着色不良が大きく目立たないもの。

キュウリの標準出荷規格の基本的な考え方

- 一般的な荷姿として平箱およびA式段ボール（以下「A式DB」）があり、主として用いる産地や用途等が異なることを踏まえ、**標準出荷規格は「平箱主体」と「A式DB主体」に区別して定める。**
- **等級**は、現行の区分ごとに用途があるため集約せず一般的な**A～Cの3区分**とする。
- **各等級の曲がり幅**は、特に量販店においては多少曲がり幅が大きくとも販売に大きく影響しないとの卸売市場の意見を踏まえ、**一般的な基準から緩和（曲がり幅を拡大）**する。ただし、曲がり幅以外の等級選別基準については、緩和した際の販売面への影響を考慮し、一般的な基準を踏襲する。
- **階級**は、産地により区分数が異なるが、中心的な階級以外は等級の大きな区別なく、袋詰めや加工業務に用いられることが多い実態等を踏まえ、**A・Bは平箱主体を2区分、A式DB主体を3区分とし、Cはいずれも1区分とする。**
※A式DB主体の階級区分は、販売実態・作型等を考慮
- 各階級の1本あたりの長さ・重量は、現行の一般的な基準をもとに定めるが、作型・品種により果肉の形状・大きさ等が異なることを考慮し、目安とする。 ※作型等を考慮し、各産地で設定
- Cの量目は箱代のコスト低減等を目的として10kgも設ける。また、1箱本数は目安とする。

【参考】平箱・A式DB



平箱（コンテナDB）



A式DB



4. 本取り組みにより期待されるメリット

卸売市場側で期待されるメリット

- 等階級の集約により、**仕分け・検品作業や分荷時の労力軽減および効率化**が見込まれる。
- 等階級の集約により、**販売ロットの増加**が期待される。
- 全国的な出荷規格の標準化がすすむことにより、**取引の円滑化**が期待される。

産地側で期待されるメリット

[トマト・キュウリ共通]

- 等階級の集約により、等級・階級を組み合わせた**出荷規格の総区分数が減少**（例：3等級×6階級＝18区分→2等級×6階級＝12区分）することで、個選・共選ともに**選別・出荷作業の労力低減**が見込まれる。
- 共選では**選果場の要員数の削減や施設更新時の投資規模の抑制などのコスト低減効果**が期待される。
- JA集荷場や運送会社など、流通の各段階における**仕分け・検品作業の労力軽減**が見込まれる。

[キュウリ]

- 各等級の曲がり幅を見直すことにより、特にA等級では出荷数量の増加が見込まれ、減少傾向にある出荷数量の維持・拡大への寄与が期待される。

5.今後の取り組みスケジュールイメージ（夏秋作産地の場合）

- 取引市場との事前協議ののち、出荷・販売試験を経ての本格導入を想定している。

行動主体	令和8年度				令和9年度				令和10年度	
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
各県域組織 (経済連、県 JA、全農都 府県本部)	▼JA系統組織内での標準出荷規格の決定(済)									
	従来規格による出荷			出荷・販売試験 の協力要請・調整	出荷・販売試験		総括			標準出荷規格による 本格出荷
		等級選別基準等についての 取引市場との協議						取引市場との協議		
	JA・部会への標準出荷規格 の周知・普及計画策定				普及計画の実践					

【参考資料①】

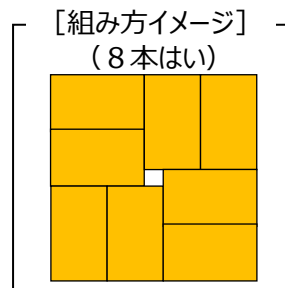
[標準出荷規格に対応した標準段ボール規格]

- T11型パレットに適合する段ボールサイズを以下のとおり示す。
- 選果場の仕様や物流上、T11型パレットの使用が困難な産地があることを踏まえ、標準出荷規格を導入する際の参考規格とする。

①トマト

- 全農作成の「T11パレットに適合した段ボール箱標準化ガイドブック」にて定めた段ボール規格とする。

分類	箱寸法	11型パレットの積み方
モールド使用	長辺：445mm 短辺：315mm	8本はい (1,075mm×1,075mm)
モールド不使用	長辺：430mm 短辺：285mm	8本はい (1,000mm×1,000mm)

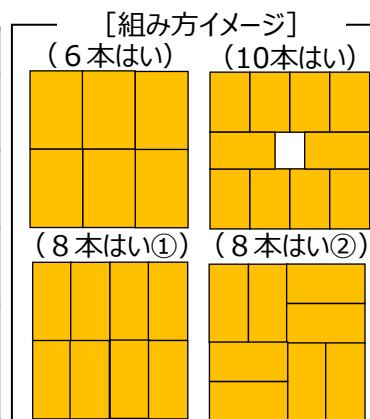


※品種等の違いにより産地によってトマトの形状・大きさが異なるため、長辺・短辺のみの設計とし、高さは各産地で定める。

②キュウリ

- 産地での試験運用や使用実績のあるサイズを標準規格とする。標準規格では一部産地で箱詰め時の労力軽減や鮮度訴求（ワンタッチ・朝採り等）規格で使用されている長箱も加える。

分類	箱寸法	11型パレットの積み方
平箱	長辺：495mm 短辺：360mm	6本はい (990mm×1,080mm)
A式DB (5kg)	長辺：417mm 短辺：256mm	10本はい (1,090mm×1,024mm)
A式DB (10kg)	長辺：400mm 短辺：250mm	10本はい (1,050mm×1,000mm)
長箱	長辺：540mm 短辺：265mm	8本はい (1,080mm×1,060mm または1,070mm×1,070mm)



[長箱の荷姿イメージ]



※品種等の違いにより産地によってキュウリの形状・大きさが異なるため、長辺・短辺のみの設計とし、高さは各産地で定める。

【参考資料②】

〔トマト・キュウリの出荷規格見直し検討部会の実施概要〕

- 令和7年6月から令和7年11月にかけて、各検討部会で、出荷規格見直しをおこなううえでの課題等を踏まえ、①標準出荷規格、②価格低下回避策、③産地普及策の3つのテーマについて協議をおこない、それぞれ案をとりまとめた。

トマト検討部会

○開催日程・協議内容

回次	開催日	協議内容
第1回	6月27日(金)	・検討部会のすすめ方の確認 ・現状の出荷規格にかかる課題整理
第2回	8月1日(金)	・標準出荷規格案の協議
第3回	9月19日(金)	・標準出荷規格案の協議、導入目標時期の設定 ・参加地域の産地普及策案の共有
第4回	10月24日(金)	・標準出荷規格案のとりまとめ ・価格低下回避策案の協議
第5回	11月21日(金)	・価格低下回避策案のとりまとめ ・全体とりまとめ

○参加メンバー

組織	参加者	組織	参加者
ホクレン	種苗園芸部次長他	東京青果	野菜第2事業部課長他
JAあいち経済連	東部販売課長他	大果大阪青果	野菜部課長他
JA熊本経済連	園芸販売課長他	JA全農青果センター	神奈川センター野菜第1課係長他
茨城県本部	園芸課長他	※大果大阪青果は第2回より参加	
栃木県本部	流通対策課長他		
岐阜県本部	園芸販売課長他		

キュウリ検討部会

○開催日程・協議内容

回次	開催日	協議内容
第1回	7月7日(月)	・検討部会のすすめ方の確認 ・現状の出荷規格にかかる課題整理
第2回	8月1日(金)	・標準出荷規格案の協議
第3回	8月29日(金)	・標準出荷規格案の協議
第4回	9月19日(金)	・標準出荷規格案のとりまとめ ・参加地域の産地普及策案の共有 ・価格低下回避策案の協議
第5回	10月24日(金)	・価格低下回避策案のとりまとめ ・全体とりまとめ
第6回	11月21日(金)	・価格低下回避策案のとりまとめ ・全体とりまとめ

○参加メンバー

組織	参加者	組織	参加者
JA高知県	園芸販売部長他	東京青果	野菜第2事業部課長他
JAみやざき	販売流通課長他	大果大阪青果	野菜部課長他
福島県本部	園芸課長代理他	JA全農青果センター	東京センター野菜第1課係長他
群馬県本部	園芸販売課長他	※大果大阪青果は第2回より参加	
埼玉県本部	園芸販売課長他		